

》》 お知らせ

クラウドファンディングのご報告と御礼

この度のインターネットを利用した当館の支援募集は、9月3日～10月23日の50日の募集期間で、272人の方から357万9千円の支援金をお寄せいただきました。目標額200万円を上回るご支援に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

フェイスブック、ツイッター、ブログ、ロコミ等で情報を広めた下さった方、「いいね！」を押して応援して下さい下さった1000人を超える方々、そしてプロジェクトを全面的にバックアップして下さい下さった松竹グループの皆様、Ready for?の皆様、本当にありがとうございました。

お寄せいただいた支援金は、平成24年度の図書館事業の運営費として使わせていただきます。

目標を達成してプロジェクトが成立した喜びばかりでなく、今回のプロジェクトによって、今まで当館の存在を知らなかった方々に、こういうユニークな演劇と映画の専門図書館があることをお知らせし、さらにこの図書館の意義を認めていただけたことは大きな喜びでした。

プロジェクト成立後、支援者の住所やお名前が手元に届きましたが、北は青森から南は鹿児島まで、支援して下さった方が全国にいらっしゃいました！当館まで足を運ぶことは出来なくても、東京にこの図書館があることに賛同して、実際にお財布の紐をといて支援して下さい下さったことに、心を打たれています。

また、「朝日新聞」「東京新聞」に取り上げられたこともあって、インターネットはしないけれど支援しますと申し出て下さった方もあり、当館に直接ご寄附をいただきました。

これからは、熱い思いを持つ個人の方々からの資金のうえに図書館事業を行っていくのだと思うと、一層社会的な責任の重さを感じます。

皆様のお役に立ち、社会に貢献できる図書館でありつづけるよう努力してまいりますので、今後ともご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



歌舞伎や『寅さん』、大切な日本の文化の宝箱を守る。
by 須貝弥生

松竹大谷図書館は歌舞伎や、映画の貴重な資料を数多く所蔵しており、日本の文化が所狭しと詰まっています。日本が紡いできた文化を守るプロジェクト。

プロジェクトが成立しました！

達成率	達成金額	終了日
178%	3,579,000円	10月23日

Ready for? プロジェクトページ
成立後の画面より

≫≫ 新着資料案内 新しく受入れた資料をご案内いたします

■ 映画資料 ■

○ …… 受入済み

タイトル	プログラム	プレス	ポスター	スチール写真	台本
『エクスペンダブルズ 2』	○	○	○		
『黄金を抱いて翔べ』	○	○	○		

■ 映画プログラム ■

『SAFE/セイフ』 『推理作家ポー 最期の5日間』 『アルゴ』

■ 書籍 ■

『アメリカン・シェイクスピア 初期アメリカ演劇の文化史』	常山菜穂子 (著)	国書刊行会
『小津安二郎と20世紀』	千葉伸夫 (著)	国書刊行会
『殉愛 原節子と小津安二郎』	西村雄一郎 (著)	新潮社
『「二十四の瞳」と木下恵介の世界』		松竹
『文楽の男 吉田玉男の世界』	吉田玉男+山川静夫 (著)	淡交社
『七世松本幸四郎掌読本』		歌舞伎座
『七世松本幸四郎二十七回忌追善九月大歌舞伎』		歌舞伎座
『泉鏡花「婦系図」「白鷺」と新派劇 小説テキストから上演台本へ』	鈴木彩 (著)	私家版
『映像美術の歩み エピソードI』	土田伊豆夫 (監修)	日本映像美術協議会
『葛飾北斎 すみだが生んだ世界の画人』		墨田区文化振興財団
『近代彫刻の巨匠 平櫛田中とかつしか』		葛飾区郷土と天文の博物館
『ゴジラとアトム 原子力は「光の国」の夢を見たか』		慶應義塾大学アート・センター
『財団法人松竹大谷図書館所蔵 青木家旧蔵川上音二郎一座関係資料調査報告書』	小川稔 (著)	私家版
『幸四郎と観る歌舞伎』	小野幸恵 (著)	アルテスパブリッシング
『映画は《私の大学》でした <私の大学>テキスト版1』	小宮山量平 (著)	こぶし書房
『山田洋次を観る』	吉村英夫 (著)	リベルタ出版

■ 松竹系10月公演資料 ■

○ …… 受入済み

劇場	演目	台本	スチール	プログラム	ポスター
新橋演舞場	『国性爺合戦』	○	○	○	○
	『歌舞伎十八番の内 勸進帳』		○		
	『曾我絢侠御所染 御所五郎蔵』	○	○		
	『歌舞伎十八番の内 勸進帳』		○		
	第八回三響会 十五周年記念公演				
日生劇場	『Musical ジェーン・エア』	○		○	○
三越劇場(日本橋)	『葛西橋』	○	○	○	○
	『舞踊 小春狂言』	○	○		
御園座	『八重桐廓嘶 姫山姥』	○		○	○
	『けいせい倭荘子 蝶の道行』				
	『伊勢音頭恋寝刃 油屋・奥庭』	○			
	『鬼一法眼三略巻 菊畑』	○			
	『六代目中村勘九郎襲名披露口上』				
	『義経千本桜 道行初音旅・川連法眼館』	○			
南座(京都)	山田洋次の軌跡～フィルムよ、さらば～			○	○
松竹座(大阪)	『RUN TO YOU』			○	○

ポスター閲覧ご希望の際は事前に御予約をお願いいたします

(新規登録資料案内 続き)

■ 他社公演資料 ■

赤坂ACTシアター	9月	『ふるあめりかに袖はぬらさじ』プログラム、台本
NHKホール	10月	『第39回NHK古典芸能鑑賞会』プログラム
大阪新歌舞伎座	10月	『中村美律子・神野美伽 錦秋特別公演』プログラム
紀伊國屋サザンシアター	10月	『冬の花 ヒロシマのこころ』プログラム、台本
紀伊國屋ホール	9月	『クール誕生』プログラム、台本
国立劇場小劇場	9月	『松尾塾子供歌舞伎』プログラム
		『第一八〇回文楽公演』プログラム、床本
国立劇場大劇場	9月	『日本の太鼓 一打に込める思い』プログラム
		『四天王寺の聖霊会』プログラム
	10月	『通し狂言 塩原多助一代記』プログラム、台本
国立文楽劇場	9月	『黄檗宗大本山 萬福寺の梵唄 黄檗・禅の声明』プログラム
	10月	『東西名流舞踊鑑賞会』プログラム
シアタークリエ	9月	『Sound Theatre CROSS ROAD』プログラム
		『ミュージカル デュエット』プログラム
シアターコクーン	9月	『ロックミュージカル騒音歌舞伎 ボクの四谷怪談』プログラム
	10月	『影武者独眼竜』プログラム
四季劇場・秋	10月	『ミュージカル 青い鳥』プログラム
下北沢駅前劇場	10月	『ロックオペラ 田舎の侍』プログラム
新国立劇場中劇場	10月	『リチャード三世』プログラム
自由劇場(四季)	9月	『ミュージカル 赤毛のアン』プログラム
スペース・ゼロ	10月	『傀儡女 時の男最終章』プログラム、台本
青年座劇場	9月	『雷鳴』プログラム、台本
テアトルエコー	10月	『プロポーズ・プロポーズ』プログラム、台本
帝国劇場	9月	『DREAM BOYS ドリームボーイズ』プログラム
俳優座劇場	9月	『オペラ 森は生きている』プログラム
	10月	『p n i s h o n v o l . 8』プログラム
博多座	10月	『博多座十月コロケ錦秋喜劇公演』ポスター
朋友芸術センター	9月	『蠅取り紙 山田家の5人兄弟』プログラム
三越劇場(日本橋)	9月	『OSK日本歌劇団 レビューTHE JUJU BLISS』プログラム
明治座	10月	『梅沢富美男劇団旗揚げ公演、梅沢富美男・中村玉緒特別公演』プログラム
ルネこだいら大ホール	9月	『小平市制施行50周年記念 特別舞踊公演 春興鏡獅子』プログラム

■ 演劇雑誌 ■

『あぜくら』平成24年10月号

『文学座通信』2011年12月～2012年10月

『文楽通信かわら版』15号

『舞踊芸術』2012年10月号

『Confettiかわら本』2012年9月号～10月号

『伝統文化新聞』2012年(77号)

『銅鑼ニュース』90号～93号

『演劇界』2012年11月号

〔《特集》歌舞伎劇評とは/自主公演&勉強会 挑戦の舞台 《インタビュー》中村亀鶴〕

『演劇界』2012年12月号

〔《特集》歌舞伎と映画 銀幕を飾った俳優 市川雷蔵 大川橋蔵 萬屋錦之介 時代劇映画の歌舞伎俳優 シネマ歌舞伎とは 《インタビュー》坂東彦三郎〕

『演劇博物館』2012年Vol. 107

〔《特集》「不滅の俳優 池部良の世界」展/現代演劇シリーズ第40弾「グローブ座」展/「八代目市川團十郎」展/「Finding Shakespeare」展〕

- 『義太夫』 93号～95号
『悲劇喜劇』 2012年11月号 [《特集》新国立劇場十五周年 《掲載戯曲》『るつぼ』アーサー・ミラー]
『ひろば』 2012年123号
『邦楽の友』 平成24年11月号
『ほうおう』 2012年12月号
〔《インタビュー》片岡仁左衛門 《特集》歌舞伎座新開場記者会見／松竹新喜劇通信V o 1. 2／新派四季暦 来春の新派は、今年生誕100年を迎える木下恵介監督の傑作喜劇『お嬢さん乾杯』！〕
『ジョイン』 別冊2011団体別上演記録 (2011年1月～12月)
『JPL』 2012年Autumn No. 47 [《特集》ミュージカル「ミス・サイゴン」]
『喝采』 2012年11月特別号 [三枝改メ六代桂文枝襲名披露公演]
『喝采』 2012年12月 [博多座文楽公演]
『喝采』 2013年1月 [宝塚歌劇宙組公演]
『国立演芸場公演ガイド』 平成24年11月号
『みんなとプーク』 No. 235、No. 236、No. 238～No. 240
『民藝の仲間』 2011年11月号～2012年9月号
『日本芸術文化振興会ニュース』 平成24年11月号
『日本照明家協会雑誌』 2012年10月号
〔《インタビュー》株式会社日芸取締役武田光さんに聞く 《特集》今後の方向性を具体的に示唆するZ e p p / 2 k W 高効率ハロゲンスポットライトの開発 LEDブロードライトの開発〕
『日本俳優協会会報』 72号
『日本舞踊』 64巻11月号
〔《特集》演目解説 長唄 雨の五郎／舞踊写真教室 新内舞踊曲 狐の絵草紙 (二)〕
『日本俳優協会会報』 73号
『人形劇のひろば』 105号～109号
『日本演劇協会会報』 326号～330号
『日本劇作家協会会報 ト書き』 2012年No. 49、2012年番外編 日本劇作家協会新委員座談会
『おもだかニュース』 2011年11月号～2012年9月号
『大向う』 平成24年10月号
『ラ・アルプ』 2012年11月号
〔《特集》ディズニー×四季 第4弾 ミュージカル『リトルマーメイド』〕
『シアターアーツ』 2012年 (52号)
〔《特集》公共劇場のあゆみ 《掲載戯曲》『アンティゴネーへの旅の記録とその上演』マレビトの会〕
『シアターガイド』 2012年12月号
〔《特集》「日の浦姫物語」大竹しのぶ&藤原竜也 蜷川幸雄ほか／「ぼくに炎の戦車を」草薨剛 鄭義信／「RENT」賀来賢人&ジュリアン&中村倫也／「こどもの一生」谷原章介&山内圭哉&吉田綱太郎〕
『匠の技 歌舞伎座をつくる』 7号
〔《特集》高さ145m、『純白』の高層棟がお目見え／「私と歌舞伎座」小山観翁／舞台づくりの裏方が語る「歌舞伎座建替え」／匠たちの証言／歌舞伎座建築学〕
『たまごとひよこ』 42号
『テアトロ』 2012年11月号
〔《特集》2012年劇界の問題点を探る！／私が魅せられた演劇人へ… 《掲載戯曲》「満月の人よ」東憲司／『欺瞞と戯言』中津留章仁〕
『つどい』 35号～37号

(新規登録資料案内 続き)

■ 映画雑誌 ■

『文化通信ジャーナル』2012年6月号

〔《インタビュー》長澤修一 アスミック・エースエンタテインメント(株)代表取締役社長〕

『ドラマ』2012年11月号

〔《掲載シナリオ》『相棒season11』輿水泰弘 第1話「聖域」、戸田山雅司 第2話「オークション」／中島丈博『赤い糸の女』第6話～第10話〕

『映画テレビ技術』2012年11月号

〔《特集》MPTE AWARDS 2012 各賞受賞者一覧／経済産業大臣賞(日本映画テレビ技術大賞)受賞報告／技術開発賞受賞報告／映像技術賞受賞報告／技術開発賞・映像技術賞審査経過報告〕

『映画時報』2012年9月号

〔《インタビュー》松竹(株)大角正取締役映像副本部長／2012年夏興行総まとめ／富士フィルム、撮影用フィルムから撤退〕

『映画秘宝』2012年12月号

〔《特集》みな殺し映画スペシャル!!／『悪の教典』がヤバイ!／桜庭一樹、吠える!／さよならシアターN渋谷。ミニシアター&名画座のゆくえ大激論!〕

『衛星劇場プログラムガイド』2012年11月号

『エキブ・ド・シネマ』2012年No. 190 [「菖蒲」]

『FLIX』2012年12月号〔《特集》「相棒」ニューイヤー!新コンビ誕生 水谷豊&成宮寛貴〕

『活狂』No. 144～No. 150

『キネマ旬報』2012年10月下旬号

〔《特集》映画は何を殴るのか 北野武のビート「アウトレイジ ビヨンド」／井筒和幸のヒロイズム「黄金を抱いて翔べ」／E・A・ポーというミステリ的存在「推理作家ポー 最期の5日間」〕

『キネマ旬報』2012年11月上旬号

〔《特集》終わらない衝突 ユング フロイト クローネンバーグ「危険なメソッド」／手紙魔の映画的人生『トリュフォーの手紙』山田宏一／野村萬斎〕

『民間放送』1898号～1910号

『NFCニューズレター』2012年10月～11月号

〔《特集》対談:「映画保存の現在と未来」／生誕百年 木下恵介劇場／日活映画の100年 日本映画の100年〕

『NFCカレンダー』2012年11月～2013年1月号

『日経エンタテインメント!』2012年11月号

〔《特集》いま気になる“いい男”100人／ジャニーズの挑戦〕

『日本映画テレビプロデューサー協会会報』2011年5月～2012年10月

『日本アカデミー賞協会会報』70号、71号

『ピクトアップ』2012年12月79号

〔《特集》『黄金を抱いて翔べ』妻夫木聡 浅野忠信 桐谷健太 溝端淳平 チャンミン(東方神起)／『009 RE:CYBORG』神山健治、作家としての現在〕

『SCREEN』2012年12月号

〔《特集》「007スカイフォール」／「トワイライト・サーガ/ブレイキング・ドーンPart 2」／「エクスペンダブルズ2」男泣きの名言集／来日スターは日本のココへ行く!〕

『シナリオ』2012年11月号

〔《掲載シナリオ》「終の信託」周防正行／「鍵泥棒のメソッド」内田けんじ〕

『シナリオ』2012年12月号

〔《掲載シナリオ》「北のカナリアたち」那須真知子／「ふがいない僕は空を見た」向井康介〕

『シナリオ教室』2012年11月号(461号)

〔《掲載シナリオ》山岡真介 NHKBSプレミアムドラマ『てふてふ荘へようこそ』第1回・第2回〕

『東映キネマ旬報』2012年夏号Vol. 19

『友 Iwanami Hall』2012年秋号No. 375

〔《特集》岩波ホール映画のあれこれ 早乙女勝元／《日本映画と私》熱く、誠実に 北川義浩〕

第27回松竹大谷図書館所蔵資料展示

「山田洋次監督」展第二弾～『運が良けりゃ』より『喜劇 一発大必勝』まで～

展示期間：2012年10月26日～2012年11月28日

於：松竹大谷図書館閲覧室

2011年に監督生活50年を迎えた山田洋次監督の資料を、10月より引き続きご紹介いたします。11月は、『運が良けりゃ』（1966年）より『喜劇 一発大必勝』（1969年）までの8作品を展示いたします。

ハナ肇とのコンビの作品を中心としたこの時代を経て、山田監督は国民的映画となる「男はつらいよ」シリーズに着手、日本を代表する映画監督として広く知られていくことになります。

また、10月30日に、政府より山田監督に、2012年度の文化勲章が贈られることが発表されました。映画監督としての受章は、黒澤明監督、新藤兼人監督に次いで三人目の栄誉となります。このような喜ばしいタイミングに山田監督の展示が出来ましたことを心より嬉しく思っています。

2013年の1月にはいよいよ、50周年記念作品として小津安二郎監督に捧げた『東京家族』が公開される予定です。



閲覧室内の展示風景。
ショーケースの上部に大谷竹次郎肖像画が飾られています。



ショーケース内のスクラップブック。
山田洋次監督、ハナ肇、倍賞千恵子、有島一郎の撮影姿が写った記事が貼られています。

●展示資料作品一覧●

『運が良けりゃ』（1966年公開） スチール、プレスシート

監督：山田洋次、脚本：山内久・山田洋次、主な出演：ハナ肇 倍賞千恵子

古典落語を題材とした初めての時代劇。次の時代劇は2002年の「たそがれ清兵衛」まで待つことになる。江戸時代の裏長屋を舞台に繰り広げられる人情喜劇で、ハナ肇と倍賞千恵子の初共演作品。大船撮影所で一番大きな第一ステージに大江戸八百八町を再現した、オールセットの大作映画。

『なつかしい風来坊』（1966年公開） カラースチール、スクラップブック

監督：山田洋次、脚本：山田洋次・森崎東、主な出演：ハナ肇 倍賞千恵子

出世街道から外れた中年サラリーマンと気ままな風来坊との間に生まれた奇妙な友情を描いた作品。1966年第17回ブルーリボン賞監督賞と主演男優賞を、『運が良けりゃ』『なつかしい風来坊』の2作品で山田洋次、ハナ肇がそれぞれ受賞した。

『九ちゃんのでっかい夢』（1967年公開） 台本（準備稿）

監督：山田洋次、脚本：山田洋次、原作：三木洋、主な出演：坂本九 倍賞千恵子

当時大スターだった坂本九の厳しいスケジュールの合間を縫って、二週間という短い期限内で製作された正月映画。坂本九の歌や芸が劇中で繰り広げられるアクション・コメディ。てんぷくトリオのショーも楽しめる。

『愛の讃歌』（1967年公開） スチール、台本(改訂稿)

監督：山田洋次、脚本：山田洋次・森崎東、主な出演：倍賞千恵子 中山仁
フランスの劇作家マルセル・パニョルの舞台劇「ファニー」を翻案したラブストーリーで、マルセイユを瀬戸内海に置き換えて作られた。当時存命だったパニョルの許諾を得るために、ヨーロッパ旅行中だった倍賞千恵子がパリのパニョルのもとを訪ねて著作権を得た逸話がある。

『喜劇 一発勝負』（1967年公開） 新聞記事、スチール

監督：山田洋次、脚本：山田洋次・宮崎晃、主な出演：ハナ肇 倍賞千恵子
ハナ肇とのコンビの「馬鹿」シリーズ三部作に続く「一発」シリーズ第一弾。落語「山崎屋」を基とした作品。ハナ肇演じる放蕩息子と倍賞千恵子演じるその妹という設定は、後の寅さんとさくらの関係に通じている。

『ハナ肇の一発大冒険』（1968年公開） 台本(第二稿)

監督：山田洋次、脚本：山田洋次、宮崎晃、主な出演：ハナ肇 倍賞千恵子
エーリヒ・ケストナーの「消え失せた密画」を題材に作られた。山田作品のなかでも珍しい、カーチェイス、銃撃戦、山岳シーンがあるアクション喜劇であり、ナンセンスとファンタジーにあふれた映画。ラストシーンで倍賞千恵子の妹、倍賞美津子が出演している。

『吹けば飛ぶよな男だが』（1968年公開） スチール

監督：山田洋次、脚本：森崎東・山田洋次、主な出演：なべおさみ 緑魔子
キネマ旬報ベスト・テン第10位となり、初めてベスト・テン入りした作品。ちんぴらヤクザのサブと家出娘の悲恋を、悲しみを強調せずユーモアを交えて描いている。なべおさみ演じるサブは、この作品の一年後に製作される寅さんの姿を彷彿とさせる。

『喜劇 一発大必勝』（1969年公開） 台本(準備稿)

監督：山田洋次、脚本：森崎東・山田洋次、原作：藤原審爾、主な出演：ハナ肇 倍賞千恵子
藤原審爾作「三文大将」の映画化。ボルネオ帰りの大男が騒動を起こすブラック・コメディ。「一発」シリーズ第三弾で、ハナ肇とのコンビの最終作。山田監督の初期の最終篇にあたるといえる作品で、この後に映画「男はつらいよ」が製作される。



■ 公益財団法人松竹大谷図書館へのご支援のお願い ■

公益財団法人松竹大谷図書館は、演劇・映画の専門図書館である松竹大谷図書館を運営し、所蔵資料を広く一般に無料で公開して、芸術文化の振興と社会文化の向上発展に寄与することを目的とする事業を行っております。

当館の使命である、資料を収集・整理・保存・公開する図書館事業を確実かつ永続的に達成し、さらなる社会貢献をしていくために、寄附金を募っております。

公益認定を受けた財団法人への寄附金支出者は税制上の優遇措置が受けられます。

何卒、ご理解とご賛同をいただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

● 現在ご支援いただいている方々（了承を得た方のみ掲載）

2012（平成24）年9月から10月の間にご支援いただきました

法人・団体（50音順・敬称略）

株式会社衛星劇場
株式会社歌舞伎座
歌舞伎座サービス株式会社
歌舞伎座舞台株式会社
松竹株式会社
松竹衣裳株式会社
松竹映画劇場株式会社
株式会社松竹映像センター
松竹音楽出版株式会社
松竹芸能株式会社
株式会社松竹サービスネットワーク
株式会社松竹マルチプレックスシアターズ
財団法人 昭和池田記念財団

個人（50音順・敬称略）

宇佐美実
佐藤半次郎
塩川正十郎
中嶋等
中村哲郎
森雅美

どうもありがとうございます

「寄贈いただきました」

十月も、多くの出版社・著者・劇団・団体・大学・個人の方々から、多数の資料をご寄贈いただきました。どうもありがとうございます。

■ 編集後記 ■

クラウドファンディングの募集期間が終了しました。これまで図書館業務を主に行ってきた職員にとっても、支援者や利用者の方々とのインターネットを通して触れ合える、とても刺激的で素敵な機会でした。募集期間は終了しましたが、もちろん、これがゴールではありません。新たなスタートだという思いを胸に頑張ります！（あ）

携帯の調子が悪くなったため、iPhone5に換えました。松竹大谷図書館初のスマホ所有者となりました。画面を覗き込む背中、他の職員からの羨望の眼差しを感じます。勝手にスマホをいじられないように注意しつつ、スマホ生活を楽しんでいきます。（む）



● 交通案内 ●
東京メトロ日比谷線、都営地下鉄浅草線 東銀座駅5番出口より徒歩3分
東京メトロ有楽町線 新富町駅1番出口より徒歩8分

● 閲覧 ●
入館料 無料
館内閲覧のみ

● 利用案内 ●
● 開館時間 ●
平日午前10時～午後5時
● 休館日 ●
土曜日、日曜日、祝祭日、毎月最終木曜日、五月一日、十一月二十一日、年末年始、春期夏期特別整理期間
※その他、臨時休館のある場合は一ヶ月前から館内に掲示します。